

# スキル科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
研究倫理特論	研究と実践の倫理	2	小泉 政利.坂井 信之.辻本 昌弘.中西 太郎.原 塑.阿部 恒之.浜田 宏	前期 水曜日 5講時
西洋古典文化特論	西洋古典文化への招待	2	荻原 理	後期 水曜日 5講時
人文社会科学研究Ⅰ	大衆文化・メディックス・ファンダムをめぐる研究著書の解説と翻訳	2	KOPYLOVA OLGA	前期 金曜日 3講時
人文社会科学研究Ⅱ	オタク文化をめぐる研究著書の解説と翻訳	2	KOPYLOVA OLGA	後期 金曜日 3講時
英語発表技能演習	英語の学術発表	2	CRAIG CHRISTOPHE	後期 火曜日 4講時
英語研究論文作成法Ⅰ	Advanced Academic Writing I	2	STEPHEN HALE	前期 水曜日 3講時
英語研究論文作成法Ⅱ	Advanced Academic Writing II	2	STEPHEN HALE	後期 水曜日 3講時
日本語研究論文作成法Ⅰ	アカデミックライティングの基礎	2	高橋 亜紀子	前期 火曜日 2講時
日本語研究論文作成法Ⅱ	アカデミックライティングの書き方	2	高橋 亜紀子	後期 火曜日 2講時
日本語理解表現スキルⅠ	読解力と口頭表現能力の改善	2	小河原 義朗	前期 火曜日 5講時
日本語理解表現スキルⅡ	読解力と口頭表現能力の改善	2	小河原 義朗	後期 火曜日 5講時
日本語・日本文化論特論Ⅰ	Studies of Japanese Popular Culture (Advanced Lecture) I / 日本文化論特論Ⅰ	2	KOPYLOVA OLGA	前期 木曜日 4講時
日本語・日本文化論特論Ⅱ	日本文化論特論Ⅱ	2	KOPYLOVA OLGA	後期 木曜日 4講時
キャリア設計演習	キャリア・イメージを作る	2	猪股 歳之	後期 木曜日 3講時
アーカイブズ学研究演習	アーカイブズ学研究法	2	加藤 諭	前期 木曜日 2講時
デジタルアーカイブ特論	デジタルアーカイブの基礎と活用	2	田村 光平.片倉 峻平	後期 木曜日 4講時
人文社会科学研究特別講義Ⅰ	文化理論入門	1	KLAUTAU ORION	前期集中 その他 連講

**科目名：研究倫理特論／ Research Ethics (Advanced Lecture)**

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小泉 政利、坂井 信之、辻本 昌弘、中西 太郎、原 壘、阿部 恒之、浜田 宏

コード：LM13501, 科目ナンバリング：LAL-OAR509J, 使用言語：日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

1. 授業題目：研究と実践の倫理

2. Course Title (授業題目) : Research Ethics

3. 授業の目的と概要：科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方でも導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で研究が行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, the theoretical basis of research ethics and integrity, as well as ethical problems typical of various research fields of humanities and social sciences are discussed.

5. 学習の到達目標：研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。

1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。

2. 実験・調査参加者や、その他の関係者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。

3. 責任ある仕方で行なう研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To understand research ethics and integrity, and to be able to practice research based on that understanding.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン、非同期授業（主としてオンデマンド型遠隔授業）として実施します。

授業内容は以下の通りです。

第1回：イントロダクション（担当：原壘）

第2回：人を対象とした医学系研究における倫理（担当：坂井信之）

第3回：心理学実験における倫理（担当：坂井信之）

第4回：質問紙調査研究の実践と倫理（担当：浜田宏）

第5回：研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向（担当：浜田宏）

第6回：フィールドワークにおける倫理の基本原則（担当：辻本昌弘）

第7回：フィールドワークにおける倫理の実践的問題（担当：辻本昌弘）

第8回：聞き取り調査の実践と倫理の諸問題（担当：中西太郎）

第9回：著作権・商標・特許等の問題について（担当：阿部恒之）

第10回：研究不正の防止と対応（担当：小泉政利）

第11回：人文学・社会科学分野における盗用（担当：原壘）

第12回：共同研究とオーサーシップ（担当：原壘）

第13回：ピア・レビューと利益相反（担当：原壘）

第14回：人文学・社会科学分野における研究の質と研究公正性との関係（担当：原壘）

第15回：人文学・社会科学の学問特性と研究不正（担当：原壘）

8. 成績評価方法：

平常点 30%、e-ラーニングの受講 20%、レポート 50%

9. 教科書および参考書：

指定された教科書はありません。参考書は授業時に教えます。

10. 授業時間外学習：講義内容について十分、復習を行ってください。授業内容について独自に調べ、理解を深めた上で、それをレポートとしてまとめていただきます。また、公正な研究について、e-ラーニングを受講する必要があります。e-ラーニングの受講方法については、初回の授業で指示します。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

初回のイントロダクションは、オンライン会議システムを使用して行います。詳細は、Google Classroom を使ってお知らせいたします。

科目名：西洋古典文化特論／ Western Classical Culture (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LM23501, 科目ナンバリング：LAL-OAR510J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋古典文化への招待
  2. Course Title (授業題目)：Introduction to Western Classical Culture
  3. 授業の目的と概要：古代ギリシャ・ローマの文化について基本的な事柄を学び、西洋古典古代の世界に馴染む（その知識は様々な場面で役立つはずである）。歴史、言語、哲学、宗教、諸芸術（文学・演劇・美術）の重要事項を学ぶ。また、西洋古代文化が後代に与えた影響や、日本でのその受容にも若干触れる。
  4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall learn basics about Greek and Roman cultures such as history, language, philosophy, religion and arts.
  5. 学習の到達目標：西洋古典文化に馴染み、最重要事項について説明できるようになる。西洋文化の今後の研究に活かせるようになる。
  6. Learning Goals(学修の到達目標)：To get acquainted with Western classical cultures.  
To be able to explain basic facts about Greek and Roman cultures.  
To be ready to make use of your knowledge about those cultures for further studies in culture at large
  7. 授業の内容・方法と進度予定：  
講義形式だが、積極的に質問してもらいたい。  
最後 2 回ほどで、希望者によるプレゼンも行なう。プレゼンを行なわない参加者には学期末レポートを提出してもらう。  
参加者の関心を尊重して内容を調整したい。  
    1. イントロ
    2. ギリシャ・ローマの歴史 (1)
    3. ギリシャ・ローマの歴史 (2)
    4. ギリシャ語とラテン語
    5. ギリシャ・ローマの哲学と宗教 (1)
    6. ギリシャ・ローマの哲学と宗教 (2)
    7. ギリシャ・ローマの哲学と宗教 (3)
    8. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (1)
    9. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (2)
    10. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (3)
    11. ギリシャ・ローマの美術 (1)
    12. ギリシャ・ローマの美術 (2)
    13. 西洋古典文化の後代への影響
    14. プレゼンテーション
    15. プレゼンテーション
- 講義とは別に、毎回出す読書課題（たとえば、ホメロス『イリアス』全 24 巻を毎週 2 巻ずつ読み進めるなど）について感想を交換する。
8. 成績評価方法：  
プレゼンテーション または 学期末レポート
  9. 教科書および参考書：  
授業中に指定する
  10. 授業時間外学習：読書課題（たとえば、ホメロス『イリアス』全 24 巻を毎週 2 巻ずつ読み進めるなど）。授業の内容の復習。プレゼンテーションまたは学期末レポートの準備
  11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
  12. その他：  
受講にあたり、あらかじめ学んでおかなければならないことは特にない。

科目名：人文社会科学研究 I / Advanced Study of Humanities and Social Sciences I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM15301, 科目ナンバリング：LAL-0AR511J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：大衆文化・メディミックス・ファンダムをめぐる研究著書の解説と翻訳
2. Course Title (授業題目)：Readings on Popular Culture, Transmedia, and Fandom
3. 授業の目的と概要：本授業では英語圏のファンダムかつメディア研究者の著書を読解し、現代のポピュラー・カルチャーにおける大きな傾向（消費の特徴や生産者と消費者の関係や文化産業の有様等）について学ぶ。また、英語版と日本語版の比較を行い、翻訳の方法や（研究成果を纏める）一般読者向けの英文の書き方を解説する。

本授業で活用する文献：

Henry Jenkins. Convergence Culture. New York: NYU Press, 2006. // ヘンリー・ジェンキンズ (著), 渡部宏樹 (翻訳), 北村紗

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to help the students develop their language skills and acquire a better understanding of contemporary popular culture through comparative reading of English texts and their Japanese translations. The reading list consists of general audience publications by English-speaking literary and media scholars; these seminal books introduce trends in the global popular culture, including changing consumption patterns of the audiences as well as strategies and policies adopted by various media and entertainment industries. They also offer some fascinating case studies of transmedia adaptations (ubiquitous in Japan and overseas). Comparative reading will allow students to expand their vocabulary, get acquainted with common translation techniques and patterns, and get used to reading Anglophone publications. For English-speaking students, it is an opportunity to improve their skills in reading and translating Japanese texts.

Reading list:

Henry Jenkins. Convergence Culture. New York: NYU Press, 2006. // ヘンリー・ジェンキンズ (著), 渡部宏樹 (翻訳), 北村紗衣 (翻訳), 阿部康人 (翻訳) 『コンヴァージェンス・カルチャー：ファンとメディアがつくる参加型文化』, 晶文社, 2021.

Marc Steinberg. Anime's Media Mix: Franchising Toys and Characters in Japan. Minneapolis: University of Minnesota Press, 2012. // マーク・スタインバーグ (著), 大塚 英志 (監修), 中川 謙 (翻訳) 『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』, 角川学芸出版, 2015.

5. 学習の到達目標：【語学力】

- 1) 英語能力をを向上させ、研究者による一般向け書籍を読む習慣を身につける。
- 2) 一般読者向けの書籍における英日翻訳の方法を覚えており、英文ライティングにおいて活用できる文法及び表現を習得する。

【専門知識】

- 3) 世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを理解しており、コンテンツ市場の発展を把握できる。
- 4) コンテンツのメディア横断的展開を背景としたポピュラー作品の制作過程を常に視野に入れており、より包括な分析を行うことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to recognize major trends in transmedia content development both in Japan and globally. Students will also learn about fandom activities and relationship between fans (otaku) and media franchises in the early 21st century.

Students are expected to:

- 1) develop the vocabulary and reading skills necessary to engage with specialized literature on popular culture;
- 2) acquire basic translation and paraphrasing skills;
- 3) get used to reading long texts in English (for Japanese students) and Japanese (for English-speaking students).

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introductory class
2. Translation basics 1
3. Translation basics 2
4. Translation basics 3
5. Reading and discussion (Convergence Culture, Introduction 1)
6. Reading and translation (Convergence Culture, Introduction 2)

7. Reading and discussion (Convergence Culture, Chapter 1.1)
8. Reading and translation (Convergence Culture, Chapter 1.2)
9. Reading and discussion (Convergence Culture, Chapter 3.1)
10. Reading and translation (Convergence Culture, Chapter 3.2)
11. Reading and discussion (Convergence Culture, Chapter 4.1)
12. Reading and translation (Convergence Culture, Chapter 4.2)
13. Reading and discussion (『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』. Introduction 1)
14. Reading and translation (『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』. Introduction 2)
15. Reading and discussion (『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』, Chapter 5)

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

**8. 成績評価方法：**

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席 (30%)、課題 (70%)

**9. 教科書および参考書：**

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

**10. 授業時間外学習：**The course will be conducted mostly in Japanese, however assignments will demand reading and writing in both Japanese and English. Relative proficiency in both languages is therefore necessary.

It is essential that you complete the assignment beforehand

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他：**

科目名：人文社会科学研究Ⅱ／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM25301, 科目ナンバリング：LAL-0AR512J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：オタク文化をめぐる研究著書の解読と翻訳

2. Course Title (授業題目) : Readings on Popular and Otaku Culture

3. 授業の目的と概要：本授業では日本語の評論家かつメディア研究者の著書の英語版を読解し、現代のポピュラー・カルチャーにおける大きな傾向（消費の特徴や生産者と消費者の関係や文化産業の有様等）について学ぶ。また、英語版と日本語版の比較を行い、翻訳の方法や（研究成果を纏める）一般読者向けの英文の書き方を解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course aims to help the students develop their language skills and acquire a better understanding of contemporary Japanese popular culture through comparative reading of Japanese texts and their English translations. The reading list consists of general audience and specialized publications by Japanese cultural critics and media scholars. Comparative reading will allow students to expand their vocabulary, get acquainted with common translation techniques and patterns, and get used to reading Anglophone publications. For English-speaking students, it is an opportunity to improve their skills in reading and translating Japanese texts.

5. 学習の到達目標：【語学力】

- 1) 英語能力をを向上させ、研究者による一般向け書籍を読む習慣を身につける。
- 2) 一般読者向けの書籍における日英翻訳の方法を覚えており、英文ライティングにおいて活用できる文法及び表現を習得する。

【専門知識】

3) 世界中のポピュラー・カルチャーにおける傾向、また消費者と生産者の関係などを理解しており、ポピュラー・メディア及びコンテンツ市場の発展を追うことができる。

4) 日本におけるオタク文化の歴史を把握した上で、その特徴の分析を行うことができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of the course, students should be able to recognize major trends in transmedia content development both in Japan and globally. Students will also learn about fandom activities and relationship between fans (otaku) and media franchises in the early 21st century.

Students are expected to:

- 1) develop the vocabulary and reading skills necessary to engage with specialized literature on popular culture;
- 2) acquire basic translation and paraphrasing skills;
- 3) get used to reading long texts in English (for Japanese students) and Japanese (for English-speaking students).

7. 授業の内容・方法と進度予定：

クラスワークが課題に基づきます。課題の内容は、文献リスト（「その他を参照」）から五つか六つの研究論文を選んでいただいたものにします。学生からの提案した英語の論文・章も考慮します。

1. Introductory class
2. Translation basics 1
3. Translation basics 2
4. Translation basics 3
5. Reading and discussion (Article 1.1)
6. Reading and translation (Article 1.2)
7. Reading and discussion (Article 2.1)
8. Reading and translation (Article 2.2)
9. Reading and discussion (Article 3.1)
10. Reading and translation (Article 3.2)
11. Reading and discussion (Article 4.1)
12. Reading and translation (Article 4.2)
13. Reading and discussion (Article 5.1)
14. Reading and translation (Article 5.2)
15. Final discussion

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席（30%）、課題（70%）

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

**10. 授業時間外学習:** The course will be conducted mostly in Japanese, however assignments will demand reading and writing in both Japanese and English. Relative proficiency in both languages is therefore necessary.

It is essential that you complete the assignment beforehand

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他:**

文献リスト:

OTAKU

1. Okada, Toshio. "The Transition of Otaku and Otaku." Trans. by Kamm Björn-Ole. In *Debating Otaku in Contemporary Japan: Historical Perspectives and New Horizons*, Patrick W. Galbraith, KamThiam Huat, and KammBjörn-Ole (eds.), London: Bloom

**科目名：英語発表技能演習／ Academic Presentation (Practicum)**

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LM22401, 科目ナンバリング：LAL-0AR513E, 使用言語：英語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

1. 授業題目：英語の学術発表
2. Course Title (授業題目)：Academic Presentation in English
3. 授業の目的と概要：授業では、英語の学術の環境の中で研究を報告の仕方を学ぶ。また、全面的に英語の学会やシンポジウムに参加する方法を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class offers practical instruction on presenting research in an English-language academic setting. It also provides instruction on various aspects of participation in English-language academic conferences and symposia.
5. 学習の到達目標：英語の学会やシンポジウムに参加し報告することが出来るための必要の技術を学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The primary goal of the class is for students to gain the skills necessary to present at and participate in English-language academic conferences and symposia.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 序論:英語の学会
  2. 発表・報告の基本
  3. ディスカッションと質問
  4. 学生発表と フィードバック
  5. 学生発表と フィードバック
  6. 学生発表と フィードバック
  7. 学生発表と フィードバック
  8. 学生発表と フィードバック
  9. 学生発表と フィードバック
  10. 学生発表と フィードバック
  11. 学生発表と フィードバック
  12. 学生発表と フィードバック
  13. 学生発表と フィードバック
  14. 学生発表と フィードバック
  15. 学生発表と フィードバック
8. 成績評価方法：

Presentation [60%], Discussion participation [40%]
9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。  
Necessary readings will be distributed.
10. 授業時間外学習：1 回研究発表  
12 回ディスカッション  
1 presentation  
Discussion participation (each class)
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

This class is taught in English.



科目名：英語研究論文作成法Ⅰ／Advanced English for Academic writing I

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LM13301, 科目ナンバリング：LAL-0AR514E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Advanced Academic Writing I
2. Course Title (授業題目)：Advanced Academic Writing I
3. 授業の目的と概要：This course is an introduction to the process of academic writing in English. The foremost objective is to enable students to gain practical skills and confidence for communicating effectively in formal English writing. To this end, students will learn an
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is an introduction to the process of academic writing in English. The foremost objective is to enable students to gain practical skills and confidence for communicating effectively in formal English writing. To this end, students will learn and practice the basics for: (1) common and uncommon uses of a variety of punctuation marks; (2) the correct page layout for writing paragraphs and essays; (3) sentence, paragraph, and essay structure for different essay types; and (4) strategies for pre-writing, writing, proofreading and revision.

Note that all writing in this course will essentially be collaborative as a result of input and revision advice from peers and instructor alike. In other words, only revised second drafts of writing will be accepted for evaluation (scoring). Also note that Advanced Academic Writing I is a prerequisite course for acquiring the skills needed for succeeding in Advanced Academic Writing II, which focuses on all steps and related issues in the process of research paper writing in English.

5. 学習の到達目標：As a result of completing this course, students will be able to:
  - 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for formal academic essays in English.
  - 2) identify different types of essays and make correct writing decisions related to
6. Learning Goals(学修の到達目標)：As a result of completing this course, students will be able to:
  - 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for formal academic essays in English.
  - 2) identify different types of essays and make correct writing decisions related to punctuation, diction, sentence and paragraph structure, and essay organization.
  - 3) find and correct common grammatical and mechanical mistakes in writing.
  - 4) write an effective self-introductory paragraph, a descriptive essay, a narrative essay, and a process essay.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Semester I Course Introduction; the Writing Process; Plagiarism
- 2) Page Layout Rules and Word Processing; Writing Email
- 3) Capitalization Rules; Parts of a Paragraph; Introduction to Assignment 1
- 4) Basic Sentence Structure; Revision (Proofreading and Editing)
- 5) Parts of an Essay; Introduction Paragraph; Attention Getters
- 6) Thesis Statements; Introduction to Assignment 2; Essay Model Analysis
- 7) Parallelism; Conclusion Paragraph; Colons and Semicolons
- 8) Writing Workshop for Assignment 2
- 9) Introduction to Assignment 3; Essay Model Analysis
- 10) Hyphens and Dashes; Cohesion
- 11) Writing Workshop for Assignment 3
- 12) Writing about a Process; Introduction to Assignment 4; Essay Model Analysis
- 13) Process Writing (continued); Audience and Tone
- 14) Writing Workshop for Assignment 3; Test Preview/Course Review and Evaluation
- 15) Semester I Test

8. 成績評価方法：

The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) writing assignments, and (3) a semester test.

9. 教科書および参考書：

Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

10. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing writing assignments according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing and redoing a series of tasks, success in this course depends on

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**1 2. その他：**

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：英語研究論文作成法Ⅱ／ Advanced English for Academic writing II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LM23301, 科目ナンバリング：LAL-OAR515E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Advanced Academic Writing II
2. Course Title (授業題目)：Advanced Academic Writing II
3. 授業の目的と概要：Advanced Academic Writing II is a continuation of Advanced Academic Writing I (AAWI) from the spring semester; therefore successful completion of AAWI is prerequisite for taking this course. Using the fundamental skills of academic writing acquired during
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Advanced Academic Writing II is a continuation of Advanced Academic Writing I (AAWI) from the spring semester; therefore successful completion of AAWI is prerequisite for taking this course. Using the fundamental skills of academic writing acquired during the spring semester, students will focus on producing a fully documented research paper in English (8-12 substantial paragraphs in length). Students will thus systematically study the research process and learn how to present research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and citation of source material. This process will also include writing an abstract (summary) and an oral presentation of research findings.
5. 学習の到達目標：As a result of taking this course, students will be able to:
  - 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for research papers in English.
  - 2) identify and evaluate potential resources of information.
  - 3) select a topic, then systemati
6. Learning Goals (学修の到達目標)：As a result of taking this course, students will be able to:
  - 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for research papers in English.
  - 2) identify and evaluate potential resources of information.
  - 3) select a topic, then systematically conduct original research, and write a fully documented research paper.
  - 4) summarize the thesis and contents of the research paper in an abstract and PowerPoint or video presentation.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1) Semester II Course Introduction; the Research Process
  - 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources; Working Bibliography
  - 3) Gathering and Evaluating Source Materials
  - 4) Paragraph Organization and Note-Taking
  - 5) Note-Taking (continued); Quotations and Paraphrasing
  - 6) Capitalization, Italics, and Quotation Marks
  - 7) Model Analysis; Writing an Outline
  - 8) Writing Workshop 1
  - 9) Writing the First Draft; Citing Sources; Avoiding Plagiarism
  - 10) Writing Workshop 2
  - 11) Works Cited List; Layout for Final Draft; Evaluation Rubric
  - 12) Writing Workshop 3
  - 13) Abstract Writing; Presentation of Research
  - 14) Research Presentations; Test Preview/Course Review and Evaluation
  - 15) Semester II Test
8. 成績評価方法：

The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) research paper and abstract; (3) research presentation; and (4) semester test.
9. 教科書および参考書：

Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

Note that the Style Guide of the Modern

10. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing the various research steps according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing a series of tasks, success in this course depends on consi

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：日本語研究論文作成法Ⅰ／Advanced Japanese for Academic writingⅠ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM12201, 科目ナンバリング：LAL-0AR516J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミックライティングの基礎

2. Course Title (授業題目)：Academic WritingⅠ

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を正確に、わかりやすく書けるようになることです。そのために、日本語で文章を書くときに必要な基礎的な知識、文法、表現などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to help students acquire basic academic writing skills in Japanese. This course also furthers the development of a student's skills in writing reports and research papers properly. In addition, students have opportunities to practice peer review and improve their reports.

5. 学習の到達目標： 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける

2 読み手にわかりやすく書く力をつける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to:

1. develop the writing skills and learn useful expressions.

2. learn proper sentence construction.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では、classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは、qvh4n6g です。

classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. オリエンテーション

2. 自己紹介文を書く

3. 自分の研究を紹介する

4. 書き言葉のルール

5. 過程を説明する

6. 定義を説明する①

7. 定義を説明する②

8. 分類・例示を説明する①

9. 分類・例示を説明する②

10. 比較・対照を説明する①

11. 比較・対照を説明する②

12. 原因・結果を説明する①

13. 原因・結果を説明する②

14. 全体のまとめ①

15. 全体のまとめ②

8. 成績評価方法：

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『Good Writing へのパスポート』（くろしお出版）、『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）など

10. 授業時間外学習：ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語研究論文作成法Ⅱ／ Advanced Japanese for Academic writing II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM22201, 科目ナンバリング：LAL-OAR517J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミックライティングの書き方

2. Course Title (授業題目)：Academic writing II

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を作成する手順にそって、レポートを完成させるまでのプロセスを学ぶことです。そのために、テーマの調べ方や資料の調べ方、文章の構成の仕方、引用の方法などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students learn and experience the process of writing a report in Japanese. This course also furthers the development of a student's research skills. Specifically, in developing a research topic and thesis, reviewing relevant literature, and learning writing structure and citation methods. In addition, students have opportunities to practice peer review and improve their reports.

5. 学習の到達目標： 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身につける  
2 読み手にわかりやすく書く力をつける  
3 レポートや論文を作成する方法を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to

1. develop the writing skills and learn useful expressions.
2. learn proper sentence construction.
3. learn the skills necessary for writing a report or a research paper

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：オンライン）

1. オリエンテーション
2. テーマを見つけよう・調べよう
3. 資料の探し方を知ろう
4. 資料を整理しよう・話し合おう
5. 資料を読んで整理しよう
6. テーマの絞り込みと定義の重要性を学ぼう
7. 定義の書き方を考えよう
8. 筆者の意図と構成を考えよう
9. タイトル・アウトラインを作成しよう
10. 引用方法や参考文献の書き方を学ぼう
11. レポートを書くときの表現を学ぼう
12. レポートを作成する前に確認しよう
13. ともだちのレポートを読んでフィードバックをしよう
14. フィードバックを読んで、よりよい文章に直そう
15. 自分のレポートを読んで、自分の成長をまとめよう

8. 成績評価方法：

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%  
以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。参考書は『あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』（ココ出版）、『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』（ひつじ書房）

など

10. 授業時間外学習：ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語理解表現スキルⅠ／ Japanese comprehension and expression skills I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM12501, 科目ナンバリング：LAL-0AR525J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善
2. Course Title (授業題目)：improving of reading and speaking skills
3. 授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Reading comprehension can be defined as the process of reconstructing a story from reading material. The aim of this course is to improve students' reading and speaking skills in Japanese by post-reading retelling activity in pairs. Students have opportunities to retell the story to each other in each pair of learners.
5. 学習の到達目標：
  - 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる
  - 2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goals of this course are to:
  1. comprehend a decent amount of sentences which is less than 600 characters.
  2. inform what you understand to someone adequately.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. オリエンテーション
  2. 再話活動(1)
  3. 再話活動(2)
  4. 再話活動(3)
  5. 再話活動(4)
  6. 再話活動(5)
  7. 再話活動(6)
  8. 中間テスト
  9. 再話活動(7)
  10. 再話活動(8)
  11. 再話活動(9)
  12. 再話活動(10)
  13. 再話活動(11)
  14. 再話活動(12)
  15. 期末テスト
8. 成績評価方法：

課題 25%、クイズ 25%、中間テスト 25%、期末テスト 25%

以上の割合で、総合的に判定する
9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など
10. 授業時間外学習：毎回、課題とクイズがあります。
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語理解表現スキルⅡ／ Japanese comprehension and expression skills II

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM22501, 科目ナンバリング：LAL-0AR526J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善
2. Course Title (授業題目)：improving of reading and speaking skills
3. 授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Reading comprehension can be defined as the process of reconstructing a story from reading material. The aim of this course is to improve students' reading and speaking skills in Japanese by post-reading retelling activity in pairs. Students have opportunities to retell the story to each other in each pair of learners.
5. 学習の到達目標：
  - 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる
  - 2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goals of this course are to:
  1. comprehend a decent amount of sentences which is less than 600 characters.
  2. inform what you understand to someone adequately.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. オリエンテーション
  2. 再話活動(1)
  3. 再話活動(2)
  4. 再話活動(3)
  5. 再話活動(4)
  6. 再話活動(5)
  7. 再話活動(6)
  8. 中間テスト
  9. 再話活動(7)
  10. 再話活動(8)
  11. 再話活動(9)
  12. 再話活動(10)
  13. 再話活動(11)
  14. 再話活動(12)
  15. 期末テスト
8. 成績評価方法：

課題 25%、クイズ 25%、中間テスト 25%、期末テスト 25%

以上の割合で、総合的に判定する
9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など
10. 授業時間外学習：毎回、課題とクイズがあります。
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。



科目名：日本語・日本文化論特論Ⅰ／Studies of Japanese Culture(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 木曜日 4講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM14401, 科目ナンバリング：LAL-0AR518E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Studies of Japanese Popular Culture (Advanced Lecture)Ⅰ / 日本文化論特論Ⅰ  
2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese Popular Culture (Advanced Lecture)Ⅰ / 日本文化論特論Ⅰ  
3. 授業の目的と概要：This course focuses on the history of popular culture in modern and contemporary Japan (from Edo to the early 2000s): its main media forms, genres, and practices. It aims to describe multiple phenomena that have shaped cultural production and consumption

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：本授業は江戸時代初期から2000年代までの期間に焦点を絞り、日本のポピュラー・カルチャーの進展を辿っている。日本における創造生産の特徴、人気のあるコンテンツの種類及び典型的な消費パターンを紹介し、それを形成した要素を学生に考察させる。それによって日本のポピュラー・カルチャーの概要だけでなく、大衆文化の根本的な原理の理解が成立することが期待される。さらに、皆さんが講義と課題によって日本のポピュラー・カルチャーをめぐる研究と接触し、これから自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

5. 学習の到達目標：——江戸時代初期から2000年代にかけての日本の大衆文化の全貌を把握する。  
——各々のメディア、ジャンル、また創造産業の登場と展開を裏付ける歴史的状況、技術、そして社会の相互作用を理解する。  
——日本におけるメディアや消費活動などの特徴についての知識を活用し、世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを分析できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to:

- 1) Describe the overall history of popular culture in Japan from the Edo period to the early 2000s.
- 2) Explain how historical circumstances, technological developments, and social changes came together to give life to new forms of entertainment media, genres, professions, and creative industries.
- 2) Recognize specific features of Japanese media and consumer behavior, but also find analogs and parallels in other countries where possible; use this understanding of the specific and the common to discern worldwide trends in popular culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

The course will be conducted in English, however supplementary reading may include materials in Japanese.

1. Proto-popular culture in Edo period I: Life and entertainment in cities and in the countryside
2. Proto-popular culture in Edo period II: Life and entertainment in cities and in the countryside
3. Proto-popular culture in Edo period II: Play and liminal spaces, traveling
4. Proto-popular culture in Edo period IV: Yōkai and hayarigami
5. Yōkai in the 20th century: from documented folklore to urban legends
6. The Taishō period I: Urbanization, westernization, new media
7. The Taishō period II: Entertainment in print, shōjo culture, and Takarazuka Revue
8. The Taishō period III: Early Japanese cinema; media and censorship
9. WWII aftermath: Japan during and after the occupation
10. The tumultuous 60s and new forms of entertainment
11. The affluent 70s: The arrival of kawaii culture
12. Many faces of 'kyara': yurukyara
13. Early history of game centers and video games in Japan
14. Mass media and scandal in Japan
15. Idols, celebrities, and promotional agencies

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席 (20%)、課題 (70%)、および授業への貢献を加味する (10%)  
課題は重要！

出席=1、遠隔での参加 (特別の理由がない限り) =0.5

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：The course will be conducted in English.

Students are required to read the materials provided to them by the lecturer and complete corresponding assignments before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own ex

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

使用言語は\_\_英語\_\_です。

科目名：日本語・日本文化論特論Ⅱ／ Studies of Japanese Culture(Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM24401, 科目ナンバリング：LAL-0AR519E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文化論特論Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese Popular Culture (Advanced Lecture) II

3. 授業の目的と概要：本授業は「日本文化論特論Ⅰ」をもとに、日本におけるポピュラー・カルチャーとファン・カルチャー（オタク文化）の相互関係を説明する。具体的に言えば、オタクの根本的な価値観、興味及び指向、そしてそれに応じたコンテンツの分類を解説した上で、創造産業と消費者の相互影響を明らかにする。各々の創造産業の事情と戦略、コンテンツと物語内容の関係性、表現メディアの特徴、ファン活動と消費パターンといった幅広いテーマが取り上げられ、受講者が様々なメディアやそれに関連するサブカルチャーの特徴について知ることができる。皆さんがこの授

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：As a direct continuation of 日本文化論特論Ⅰ (taking the first course is not a strict requirement), this course demonstrates how popular culture in Japan mixes with a more niche fan (otaku) culture and vice versa.

It describes typical fan practices and values and proceeds to demonstrate how creative industries (for instance, TV producers, publishers, or creative workers) interact with consumers (especially fans) and how different types of IP are disseminated and used. Through this course, students will gain an opportunity to consider multiple phenomena that distinguish cultural production in Japan, from economic conditions that influence creative industries, to consumption patterns and fan activities, to storytelling techniques, to the specificity of various media. Students will develop a more nuanced understanding of various entertainment media and their most dedicated consumers, on the one hand, and be able to discover new lines of inquiry potentially applicable in their postgraduate research, on the other hand.

5. 学習の到達目標：——オタク市場に関わる主な表現メディアの歴史を把握し、メディアの生産、流布と消費の特徴、あるいはメディアの相互関係についての知識を有する。

——日本のオタク文化及びファンの消費行動の特徴、それに関連する主な概念を知り、他の国におけるファン・カルチャーとの共通点あるいは類似点を見いだせる。

——日本のポピュラー作品を多面的かつ包括的に解説し、様々な観点から評価できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to:

- 1) Describe major media associated with Japanese otaku market, their history, specifics of their production, distribution and consumption, as well as their relations with other media.
- 2) Recognize key concepts of the otaku culture and general trends in fan consumption in Japan; but also find analogues and parallels in other countries where possible; use this understanding of the specific and the common to discern world-wide trends in popular culture.
- 3) Consume and evaluate works of Japanese popular culture from multiple standpoints, addressing both form and content and taking into account factors that might have shaped the former and the latter.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

The course will be conducted in English, however supplementary reading will include materials in Japanese.

1. The many faces of otaku I: What is 'otaku' ?
2. The many faces of otaku II: A history of fan practices in Japan
3. Different types of fan engagement and fan creativity
4. What is media mix? Creative industries and transmedia franchises
5. Various media of otaku market I: Anime industry
6. Various media of otaku market II: How anime is made
7. Various media of otaku market III : How manga is made
8. Various media of otaku market IV: Manga industry in the 21 century
9. 2.5-jigen practices III: Voice acting in the Japanese popular media (history)
10. 2.5-jigen practices IV: Voice acting in the Japanese popular media today
11. 2.5-jigen practices IV: 2.5 stage plays/musicals
12. 2.5-jigen practices I: Anime tourism (contents tourism)
13. 2.5-jigen practices II: Cosplay
14. Idols, celebrities, and promotional agencies I: Tarento
15. Idols, celebrities, and promotional agencies II: Idols

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席（20%）、課題（70%）、および授業への貢献を加味する（10%）  
課題は重要！

出席=1、遠隔での参加（特別の理由がない限り）=0.5

**9. 教科書および参考書：**

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

**10. 授業時間外学習：**The course will be conducted in English.

Students are required to read the materials provided to them by the lecturer and complete corresponding assignments before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own ex

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他：**

使用言語は\_\_英語\_\_です。

**科目名：キャリア設計演習／ Carrier Design Seminar**

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：猪股 歳之

コード：LM24301, 科目ナンバリング：LAL-0AR521J, 使用言語：日本語

**【平成30年度以前入学者読替先科目名：】**

1. 授業題目：キャリア・イメージを作る

2. Course Title (授業題目) : For making a concept of your own profession

3. 授業の目的と概要：この授業では、大学院文学研究科の学生が、日本の経済構造や労働法制といった基本事項について理解を深めるとともに、実際の「働く」現場のあり様について具体的なイメージを持ち、自らの将来のキャリアを主体的にプランニングしていけるよう、キャリア支援センターと共同して実践的な教育を行います。取得単位はスキル科目として修了単位にカウントされます（学生便覧で確認のこと）。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this class, students of the Graduate School of Arts and Letters will deepen their understanding of basic matters such as Japan's economic structure and labor legislation, have a concrete image of the actual "working" field, and take the initiative in their future careers. We will provide practical educational guidance in collaboration with the Center for Career Support so that you can plan. Credits earned will be counted as graduation credits as a skill-specialized education subject (check the Student Handbook).

5. 学習の到達目標：職業生活についての具体的なイメージを得て、自らのキャリアについて主体的に構想していけるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will be able to get a concrete image of their own work-life and think independently about their careers.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション

2. 日本経済の基本構造について(1)

3. 日本経済の基本構造について(2)

4. ビジネス全般について(1)

5. ビジネス全般について(2)

6. ビジネス全般について(3)

7. 公務員

8. 労働法

9. 二十歳のハローワーク（様々な職種で活躍する先輩等による就職講演会）

10. 業界・仕事研究セミナー(1)

11. 業界・仕事研究セミナー(2)

12. 業界・仕事研究セミナー(3)

13. 自己分析と就職活動(1)

14. 自己分析と就職活動(2)

15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業と指定されたセミナー等への参加およびその報告の提出（100％）。

9. 教科書および参考書：

特になし。必要な資料は授業時に配付する。

Necessary materials will be distributed during class.

10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題の準備。日常的にニュースやインターネット等を通じて経済情報に目配りすること。

Prepare for assignments given in class. Monitor economic information through news, the internet, etc. daily.

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**1 2. その他：**

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：アーカイブズ学研究演習／ Archival Science (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：加藤 諭

コード：LM14201, 科目ナンバリング：LAL-0AR532J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アーカイブズ学研究法
2. Course Title (授業題目)：Research Methods in Archival Science
3. 授業の目的と概要：本講義は、実際にアーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの業務について、ディスカッションや実践を通じて体得する授業である。アーカイブズ機関の現場で求められるアーキビストの使命・倫理、資料保存に関する技術、公文書の保存・修復・利用に関する知識、専門的な知識やマネジメント、職務上必要なスキルやマネジメント能力について、理解を深めることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture is a class in which students learn about the work of archivists actually required in archives through discussion and practice. Students will deepen their understanding of the mission and ethics of archivists required in the field of archives, techniques related to document preservation, knowledge of preservation, restoration, and utilization of official documents, expertise and management, and skills and management abilities necessary for their work.
5. 学習の到達目標：本講義は、現場のアーキビストとのディスカッションや、マネジメントに関する演習等をおこない、アーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの知識・技能を体得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：In this lecture, students will have discussions with archivists in the field and practice management to acquire the knowledge and skills required of archivists in archival institutions.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. ガイダンス
  2. アーキビストの使命と役割
  3. 国立大学法人における文書管理と連携
  4. 大学アーカイブズにおける保存・修復・利用
  5. 大学アーカイブズにおける MLA 連携とアウトリーチ活動
  6. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践①
  7. 自治体アーカイブズにおける業務と実践①
  8. 自治体アーカイブズにおける業務と実践②
  9. 民間アーカイブズにおける業務と実践
  10. 自治体アーカイブズにおける業務と実践③
  11. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践②
  12. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践③
  13. 東北大学史料館における記録資料の整理公開①
  14. 東北大学史料館における記録資料の整理公開②
  15. まとめ
8. 成績評価方法：

出席[50%]・受講態度[40%]・レポート[10%]
9. 教科書および参考書：

エリザベス・シェパード、ジェフリー・ヨー（共著）、森本祥子、平野泉、松崎裕子（編・訳）『レコード・マネジメント・ハンドブック：記録管理・アーカイブズ管理のための』日外アソシエーツ、2016年、スー・マケミッシュ、マイケル・ピゴット、バーバラ・リード、フランク・アップウォード（共編）、安藤正人、石原一則、坂口貴弘、塚田治郎、保坂裕興（訳）『アーカイブズ論：記録のちからと現代社会』明石書店、2019年
10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：デジタルアーカイブ特論／ Digital Archives (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：田村 光平、片倉 峻平

コード：LM24402, 科目ナンバリング：LAL-0AR523J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：デジタルアーカイブの基礎と活用
2. Course Title (授業題目)：Basics and Applications of Digital Archives
3. 授業の目的と概要：情報技術は、記録の保全・継承・活用等に関する諸課題の解決に大きく貢献することが期待されている。前半は、デジタルアーカイブの基礎的な紹介をするとともに、なぜ今デジタル・アーカイブが注目されているのか、さまざまな社会的課題と関連づけて紹介する。後半は、デジタルアーカイブに関する技術の基礎を紹介し、デジタルアーカイブの構築・運用のための知識を習得するとともに、実際のデジタルアーカイブ構築を経験する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is an introduction to digital archives. Recent developments in information technologies are expected to solve a wide variety of issues in archiving. This course will be divided into two parts. The first half will outline the basic concepts of digital archives and briefly illustrate social changes related to digital archives and information technologies. The second half will explain the basics of information technologies related to digital archives. Further, we will touch on practice to develop a digital archive collection.
5. 学習の到達目標：デジタルアーカイブの意義や課題を、情報技術に関わる社会的な諸課題と結びつけて理解する。デジタルアーカイブ構築を経験する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are: (i) to understand the significance and issues of digital archives, particularly in connection with social issues caused by technological developments, and (ii) to gain experience in developing a digital archive.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. ガイダンス・デジタルアーカイブとはなにか
  2. デジタルアーカイブの多様性
  3. デジタルアーカイブへの期待
  4. デジタルアーカイブによる保管と継承
  5. デジタルアーカイブによるアクセスの拡大
  6. デジタルアーカイブのためのデータ構築：3 次元計測の実習
  7. デジタルアーカイブの活用 1：研究とデジタル・ヒューマニティーズ概論
  8. デジタルアーカイブの活用 2：教育・アウトリーチ
  9. 中間まとめ
  10. 技術的な話題 1：情報リテラシーの基礎
  11. 技術的な話題 2：サーバー、データベース、メタデータ
  12. 技術的な話題 3：TEI と IIIF
  13. 技術的な話題 4：TEI と IIIF の実例
  14. 実習：デジタルアーカイブの構築
  15. 最終まとめ
8. 成績評価方法：

受講態度 [20%]、レポート [40%]、演習の成果物 [40%]
9. 教科書および参考書：

以下を参考書として挙げる。

柳与志夫（責任編集）『入門 デジタルアーカイブ』（勉誠出版）  
後藤真・橋本雄太（編）『歴史情報学の教科書』（文学通信）
10. 授業時間外学習：授業前に読んでおくべき資料を提示することがある。中間まとめ時にレポート、最終まとめ時にデジタルアーカイブの提出を求めるため、授業時間外に作成する必要がある。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

後半は PC の持参が必要な回がある。個人用の PC を持っていない場合は、初回のガイダンス時に相談すること。



科目名：人文社会科学特別講義Ⅰ／

曜日・講時：

セメスター：単位数：

担当教員：KLAUTAU ORION

コード：LM98836, 科目ナンバリング：LAL-0AR533E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化理論入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Cultural Theory

3. 授業の目的と概要：この授業は、Dr. Lisa Zhang (国際文化研究科・JSPS 外国人特別研究員)を講師に招き、英語による講義を提供する。日本学国際共同大学院(GPJS)との共催科目であり、カルチュラルスタディーズの諸問題に留まらず、文化理解の方法論についても論じられる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Course Description by Dr. Lisa Zhang (Graduate School of International Cultural Studies, JSPS Fellow)：

This course serves as an introduction to cultural theory. Throughout the course, students will critically explore various aspects of culture, including the political dimensions of mass culture, the evolving conditions of art in an era marked by greater access to artistic production, and the workings of ideology. Fundamental concepts within the field, such as power relations, class structures, gender roles, and racial dynamics, will also be examined. Central to this course is the recognition of the inseparability between theory and empirical observation. As such, students will practice how theory can be used to better understand cultural phenomena. Examples may include the changing media landscape engendered by online platforms like YouTube, the widespread appeal of characters such as Gudetama, and controversies like the one involving J.K. Rowling's views on transgender issues.

5. 学習の到達目標：Upon completion of the course, students are expected to have achieved the following:

- 1) Know the basics of Cultural Theory
- 2) Have a firm grasp of some of the important concepts within Cultural Theory
- 3) Be able to use appropriate theories and con

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, students are expected to have achieved the following:

- 1) Know the basics of Cultural Theory
- 2) Have a firm grasp of some of the important concepts within Cultural Theory
- 3) Be able to use appropriate theories and concepts in the studying of cultural phenomena,

7. 授業の内容・方法と進度予定：

The course is structured around eight sessions.

Each session will involve two activities:

- 1) Lecture and close reading of the assigned text(s) for the session
- 2) Presentation and discussion of reflection papers and cultural phenomenon

Session 1: Culture and Cultures

Session 2: Decoding and Encoding Culture

Session 3: The Culture Industry

Session 4: The Democratization of Art

Session 5: The Workings of Ideology

Session 6: Truth and Politics

Session 7: Intersectionality, Race, and Sex

Session 8: The Vocabulary of Gender

8. 成績評価方法：

Students are expected to prepare for and actively participate during each session. All materials will be provided by the teacher before the first class. To complete the course, students must write 3 reflection papers over the span of the course (with each

9. 教科書および参考書：

Texts include:

- 1) Raymond Williams, "Culture," in Keywords: A Vocabulary of Culture and Society. London: Croom Helm, 1976.
- 2) Stuart Hall, "Encoding and Decoding in the television discourse," in CCCS Selected Working Papers, ed. Ann Gray et al, Abingd

10. 授業時間外学習：Expected individual study is 45 minutes per lecture hour. Students are expected to read 1 (or

2 short) articles or chapters before each session.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

This course is taught in English